

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501759		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム藤野の杜/つぐみ		
所在地	札幌市南区藤野2条7丁目5-1		
自己評価作成日	平成30年7月30日	評価結果市町村受理日	平成30年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kan=true&JigyosvoCd=0190501759-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム藤野の杜では、グループホーム単体事業として、平成28年10月にオープンいたしました。特徴といたしましては、2ユニット18名の方が一階の平屋で完結していることもあり、互いが交流しやすいことや、災害時にスムーズに避難ができることです。環境としては緑に囲まれた閑静な場所に位置しており、裏手には小学校があるため、朝晩の登下校の学童の元気な声に活気をもらい、隣には農園もあるためリンゴやサクランボの花木を眺める絶好のロケーションであります。また、2階には多目的室を設けており、地域の方々との交流の場としての位置づけや、同法人内三事業所が集まる研修会の場、大規模な行事の場として、交流を深めているところでもあります。事業所が特に力を入れているところは、身体機能の低下を予防する目的で散歩を日常生活の中に取り入れているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藤野の閑静な住宅街、果樹園にも隣接する2ユニットの事業所である。至近にスーパーやバス停があり、目の前の小学校からは児童の歓声がつつさに聞こえ、自然の恵みと地域生活が満喫できる環境である。建物内は、機能的且つプライバシーや認知障害に配慮した造作で、周辺景観とマッチした居心地の良い住空間になっている。開設2年目の事業所は、理念である「出会い、ふれあい、支え合い」を軸に、利用者のその人らしい生活は何かを、本人目線で追及している。地域との良好な交流関係を築き、子供達はじめ地域住民、ボランティアとふれあう機会が多い。家事仕事や栗や胡桃拾い、テラスでお茶会、散歩やドライブなど、日常の生活全般が機能の維持や低下予防となり、其々の楽しみや充足感が得られる支援に努力している。職員の笑顔と親身なケアが利用者の笑顔を誘い、訪問診療医の確保、施設長が看護師である事も、利用者の安心生活を支えている。建物2階の多目的室は地域交流の拠点として活用が望まれており、今後の活動が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	であい・ふれあい・支えあいの理念のもと、利用者様一人一人に寄り添ったケアを実践している。更にはユニットごとに理念をかけた、玄関に掲示し、行き詰った際には理念に立ち止まることを各スタッフが共通認識をもち、実践につなげている。	理念はパンフレットの記載や玄関に掲示し、事業所の方針を広く発信している。開設2年目の今年度は、ユニット毎に「笑顔で寄り添う介護、率先して楽しもう」の目標を立て、チームとして意識統一を図りながら、理念と目標の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には小学校があり、天気の良い日は散歩に出かけ、学童や教員、地域の方々との関わる機会を設けている。町内会行事にも積極的に参加しながら、地域の一員としての働きかけを行っている。	利用者の地域生活を目指し、積極的な地域啓発に取り組んでいる。隣地の小学校児童とは総合学習の受け入れや運動会応援、日常的にもふれあう機会が多い。地域の祭りや行事で住民やボランティアの人達と楽しみを共有し、近所とも日常的な付き合いが交わされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症予防教室に積極的に参加、また、近隣の学校行事にも参加させていただきながら、顔なじみの関係を気づけるよう活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場の状況を少しでも知っていただくために、運営推進会議ごとにスライドで近況報告を行っている。日々の状況が一目でわかりやすく、ご家族、地域の参加者より講評を得ている。	会議は、家族や行政、地域代表の参加で定期開催をしている。事業所から詳細、且つ分りやすく現状を報告している。会議後に利用者の地域行事参加が実現するなど、多様な意見を得て利用者支援に反映できるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは常時配信されているホームページやメールを通じ情報共有し、必要時は相談できる環境ができています。区内の管理者連絡会にも積極的に参加、横のつながりを持ちながら、必要時には相談できる環境作りを努めている。	管理者は、南区グループホーム連絡協議会の代表を担っており、市職員とも情報や意見交換を行い、関係構築に努めている。介護保険や保護費、助成金関係でも、利用者の安心生活の為に協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送りの他、カンファレンスなどでの個々の入居者様の処遇に関して話し合いを行い適切な処遇が行えているかを確認しあっている。身体拘束適正化委員会を設置し、日々のケアやかかわり方についての振り返り、注意喚起を促す取り組みが行われている。	身体拘束廃止に向けた指針の作成、委員会の設置、研修会の開催を順次行っている。外部研修、その伝達を行い、内部研修では身近な事例を取り上げ、拘束や不適切ケアの内容の理解を深め、意識啓発を図っている。玄関の施錠、居室のセンサー使用の際も、家族の了解を得て実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会に参加し、勉強会をスタッフ全員で行い学び、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の伝達講習や、日々の申し送りの中で、自らのかわり方、言葉かけが虐待などにつながっていないかを日々確認しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族にお会いし十分な説明を行ったうえで理解をいただいている。改定ごとに限らず、常にご家族との話し合いの場を大切にしながら、疑問や不安など、一つ一つ解決できるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けるだけでなく、ご家族来訪時、電話対応時にはさり気なく意見や要望を聞き取り、事業所の質の向上に努めている。	利用者の要望には柔軟対応を心掛け、ドライブに出掛ける事もある。家族とは、随時対話の中から意向を伺い、改善やより良い方向を検討している。通信やブログは、家族の知りたいであろう内容を工夫し、利用者の日々の暮らしや最新情報を発信している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われているカンファレンスなどで意見交換を行い、運営に関する職員の意見や提案を反映できるようにしている。	定例会議や申し送り時では、意見交換が活発であり、日常的に自由に意見表出できる関係である。人事考課の個人面談でも、職員の意見等を受け留め、向上心を支え、働きやすい職場環境に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、個人目標も設定し向上心を持ち働ける様にしている。リーダーや管理者との面談を行い働きやすい職場環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度に加え、外部研修にも積極的に参加させることで、モチベーションの向上、知識、技術の向上につながるための取り組みを積極的に行っている。また個々の研修にとどまらず、伝達講習を行い、スタッフ全員が共有できるように努めている。中途職員に対する教育体制が今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のGH連絡会には積極的に参加し、問題点や疑問点などを話し合う事で、横のつながりを持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や関係機関から情報を頂きながら、コミュニケーションを通じご本人が安心して生活できるよう支援させていただいている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初は必ずご家族に日中、夜間の様子をお伝えすることで、ご家族の不安軽減に努めている。初期段階ではご家族との情報交換は欠かさぬよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在事業所のできることを明確に説明するように努め、他サービスの活用方法などを情報提供するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体者が利用者様であるという視点に立ち、精神的、身体的、社会的な自立を促進できるよう意図的に支援するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の生活の様子や変化についてご家族様へ電話や来所時に報告・連絡・確認を綿密に行う事により情報の共有をはかり、ご家族様の意思も十分尊重するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私物に関しては、生活の継続、混乱を極力避けるためにも持参していただいている。	入居後に顔見知りになった近隣の人達もいるが、親しかった知人が遊びに来てくれたり、教会礼拝や関係者の来訪などもあり、今までの生活習慣や馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活のペースを尊重しながらも孤立しがちな入居者様にはスタッフが介入し、レクリエーションや体操を通じ和に溶け込めるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ解約する入居者様はおられないが、解約される状況に至ったとしても、ご家族、利用者様が安心・納得される状況を確認するまでは、可能な範囲で支援することが重要と考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるよう、入居時や入居経過中においてもご家族も含め意向を確認している。例えばクリスマスで礼拝に行く習慣がある方に対して、ご家族にも協力を得た上で行っていただいている	利用者一人ひとりに寄り添う中で、要望や意向に耳を傾け、把握が困難な場合も家族と連携しながら、本人にとっての望む暮らし方を検討し、ケアサービスの提供に活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしシートを使用して、ご本人の今まで生きてきた生活歴、ご家族などからも聴取して生活支援に役立たせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員を担当制にして、個々の状況の把握に努め、カンファレンスなどを通じ情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、各担当となった職員が、月ごとに経過を把握したうえで検討事項を話し合っている。	事前に利用者や家族の意向を把握し、利用者担当の職員が毎月モニタリングを行い、カンファレンスを通して全職員で気付きの共有と意見を集約している。介護計画は3ヵ月毎、状態変化時には速やかに見直し、利用者の現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々のケース記録に記入し、ケアプランに基づいたサービス状況もナンバリングにして評価しやすいように工夫しているが十分ではない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同建物内の多目的室での茶話会の実施や、地域の認知症予防教室に参加する等、安心して満足できる生活支援作りを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の認知症予防教室には月一回参加している。散歩時は近くの公園で体操をするなど積極的に外部に赴けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療に加え、当社の看護師が病院、ご家族と連絡、相談を通じ連携をとっている。他科受診が必要なケースにおいても、必ずご本人の意向を確認の上で、ご家族へ連絡、許可を頂いて受診するようにしている。	月2回の訪問診療医を利用者の主治医とし、入居前からのかかりつけ医や専門科受診を支援している。看護師である施設長が日常の健康管理、受診同行、家族への報告、医療機関との連携調整を行っており、安心の体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師が自身や介護職員より情報を入手し、いつでも相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と連携をとったり、職員が直接病院に赴き状態把握とご本人の不安軽減に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居前に重度化の指針は説明している。常時医療の対応が必要な状態になった場合は、できる範囲での対応はさせて頂くことや一方でホームでの対応にも限界がある旨も説明している。終末期のあり方については、主治医やご家族と十分協議したうえで、方向性を共有している。	利用契約時に、看取りを含めた重度化に対する対応を説明し、同意を得ている。状態悪化に応じ主治医を交えて再度話し合い、方針を確認している。現在まで看取りケアは無いが、職員教育を進めながら、実践に向け体制の整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備を行い、職員個々が対応できるようにしている。救命講習などの実施の状況を仮定した訓練も早急に行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。地域の方にも参加呼びかけ行っているが、十分な協力は得られておらず、今後の課題でもある。水災害などの避難訓練も十分とは言えず、地震や水災害時の対応方法も今一度検討が必要である。	今年度は、春と秋に夜間想定の利用者も参加した避難訓練を行い、立会いの防災業者から講評を得ている。避難場所である小学校までの移動、前年度は水害想定での垂直訓練を実施している。災害時の備蓄品を準備している。	自然災害について対応指針を策定しているため、その実践訓練を期待する。また、災害時には地域との連携が不可欠であり、協力体制構築の取組みも期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重しながら、こちよく、安心感のある言葉かけ、態度を心がけている。入職時においてはマニュアルブックを作成し人格の尊重や尊厳について指導、助言している。	利用者の尊厳と、その人らしい暮らし作りを目指し、接遇面の意識啓発を行っている。職員は共に過ごす中で温かく親しみある対等な関わりを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の思いや要望を表出しやすいような環境作りに努め個々の思いを尊重したケアを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムは作られているが、毎日の生活の中からその人に合ったペースを大切に、無理のないよう生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は日々の生活で行っている。行事ごとなどでは受け持ちスタッフが中心となり、服装選びや化粧支援など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方にはもやしのひげとりや食器洗いのお手伝いを行って頂いている。中には茶碗洗いを積極的に行ってくださる方がいて、生活の一部となっている。ミニ菜園もあり、秋にはえだ豆やかぶを収穫して、塩ゆでや漬物などして楽しんでいる。	利用者のやりたい事やできる事を支え、一緒に食事作りを楽しむ生活である。季節感や栄養バランスを考慮した献立で、利用者と一緒に収穫した野菜や栗も食卓に彩りを添えている。行事では、職員が握り寿司を振舞い、そば打ち、庭先でのバーベキュー、ホテルビュッフェも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の心身状況を把握しながら、飲食物の摂取状況、変化などを観察し、変化が見られた場合は、看護師と協力しながら原因の追究、対策につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施、義歯の方については夜間に消毒保管を行っている。歯の状態に異変があった場合は歯科受診していただいている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行動やパターンを把握し、利用者のシグナルを見極め声掛け、誘導を行っている。おむつ対応の方についてもかのような限りトイレでの排泄援助を行っている	排泄のパターンやスタイルを把握し、個々に応じた排泄の自立を支援している。衛生用品やポータブルトイレの使用を検討し、不安感に配慮しながらトイレでの自然な排泄を大切にしている。プライバシーや片麻痺等身体状況に配慮したトイレが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後には必ずオリゴ糖入りのヨーグルトを提供。便秘気味の方においては水分摂取の推奨、また下剤などで調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日についてのご希望には至っていないが、声掛けをしながらリラックスしていただけるようにBGM、入浴剤の使用など環境に配慮している。	日曜以外、毎日入浴を準備し、週2回以上、同性介助を基本とした入浴である。2種類の入浴剤や馴染みの音楽を用意し、楽しい入浴を工夫している。入浴用リフトを備えた浴槽で、ゆっくりと湯船に浸かれる環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースに合わせてもらえるよう、夕食後はゆったりと過ごしていただいている。日中においても傾眠がちな方については、夜間に影響がない程度に適宜休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり各々の利用者さんについての内服状況は、情報をおろしている。副作用の出現には特に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暖かい時期には散歩やテラスでの体操を取り入れ外気浴する機会を設けリフレッシュを図っている。外庭の菜園、花の水やり、食器洗い、食器ふきなど、普段行っていた日常生活の一部を少しでも取り入れて頂くよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	極力散歩、買い物、ドライブ等外出する機会を設け、気分転換を図れるよう努めている	紅葉や花見見物、ホテルでのビュッフェランチ等を企画し、楽しみの時間を提供している。日常的にも散歩や買い物、菜園の手入れ、テラスでの日光浴や体操などをしており、観光名所や商業施設、恵まれた自然環境を有効利用し、戸外活動の充実を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はホーム小口金庫で管理している。自己管理できる方においてはご家族の承諾を得たうえで管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族の対応の範囲をお聞きし、希望時には都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に関しては周囲の景観で十分に獲得できると考えあえて掲示物はしていない。大人のしつらえを目指し、観葉植物などを取り入れ解放感のある環境作りに努めている。今後はさらに家庭的な落ち着いた雰囲気作りをしていきたいと考えている。	柔らかな陽光が差し込む共用空間は、ゆとりある広さが確保され、窓越しの景観を取り入れた設えと、観葉植物や小さな額が、落ち着き感と温かな雰囲気を出している。リビングの他に、少人数で集えるラウンジや廊下奥に読書スペースも設けられ、自由な寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥の出窓には図書スペース、ラウンジも設け他者からの視線を遮断してつろげる空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には何度もご家族と打ち合わせを行い、私物を持ち込んでいただいている。なじみのあるものだけに固執するという事ではなく、いかに利用者様本人が寛ぎや安心感をもてるかをご家族と共通認識の下で、入居前から環境整備に取り組んでいる。	其々の居室のドアと、室内壁面の色が異なり、自室が分り易くなっている。アコーディオンカーテンの収納スペースは使い勝手が良く、自由に使用されている。調度類や大切な品々が持ち込まれ、自作の絵や鉢物、額などの装飾も、本人にとって居心地良い環境になるよう、家族とも相談し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の分かる事、わからない事について観察しながら本人の立場にたって対応するように努めている。		